

「労務費の基準」 確実な反映を 建専連が九州地整と意見交換 酷暑対応、ＣＣＵＳも議論

（一社）建設産業専門団体連合会は14日、福岡市内で九州地方整備局と意見交換会を開き、技能者の処遇改善や専門工事業の現場の実情に係る諸課題などについて意見を交わした＝写真＝。議題は適正な労務費の行き渡りや工期の設定等で、労務費に関しては、現在中央建設業審議会で作成が進められている「労務費の基準」について、今年12月予定とされる基準の策定以降、確実に反映されるよう建設Ｇメン等を通じて監督・指導を行うことなどを強く要望した。

福岡市博多区の八仙閣で開かれた意見交換会には、建専連本部や九州地区連合会加盟団体の関係者、および九州地整の幹部職員らが出席。開会に当たり、建専連の岩田正吾会長、九州地区連合会の宮村博良会長、九州地整の垣下禎博局長がそれぞれあいさつした。

意見交換の議題は▽「労務費の基準」の実効性ある活用▽さらなる適正な工期設定▽建設キャリアアップシステム（ＣＣＵＳ）カードリーダー設置促進—について。

このうち『労務費の基準』に係る議題では、建専連が九州地整に対し、建設Ｇメン等を通じて民間工事を含む全ての受発注現場で、労務費の基準が確実に反映されるよう監視・指導がなされることなどを強く要望した。

また、同議題に関連して九州建専連の複数の構成団体から、建設業の法令違反情報に関する「駆け込みホットライン」の運用上の改善点について要望や提案等が挙がった。主な内容としては、通報者に不利益が生じない情報の取り扱いがうたわれているホットラインについて、秘匿性が確保されるのかを不安視する声があることなどを報告し、さらなる運用上の改善を提案した。

別の提案では、駆け込みホットラインのポスターを作成し、各現場に元請け企業自らが掲示しなければならないルールを作れば、元請け・下請け間の適正な契約環境の整備等に対する抑止力につながるのではないか—等の意見も挙がった。

これらに対して九州地整は、ホットラインで匿名の希望があった場合、調査に入る方法や調査に至った過程説明等において、情報元が特定されないような対応を徹底していることを説明。ポスターの掲示については、法的に義務化するにはさまざまな課題が生じる可能性があることを説明した上で、確かに現場に掲げられていれば大きな抑止力になると考えられる—との見方も示し、改めてホットラインの周知に努めていくとした。

このほか労務費に係る議題では、九州建専連の構成団体より予定価格の上限拘束性の廃止に係る提案等も挙がった。

『適正工期』に関する議題では、建専連が近年の気温上昇により、夏場における建設現場の労働環境が過酷になっていることなどを指摘し、適正な工期の確保とともに、公共工事において8月を休工とするなどの工期設定を試験的に導入することなどを提案した。

一方で、学校の維持・補修等を請け負う専門工種団体からは、工事が集中する夏休み時期に休工することは難しい—との意見も挙がった。併せて、決まった工期内で余裕を持って工事を進められるよう、さらなる労務単価の引き上げ等により人員確保の環境整備が図られる必要性についても言及した。

九州地整は、これら夏場の働き方改革について、業界の実情を聴取しながら、しっかりと取り組んでいきたい—等と応じ、8月を休工にするとの意見についても多様な働き方の参考にするなど説明した。

『ＣＣＵＳ』に係る議題では、九州建専連がカードリーダーの設置状況について、地方において遅れているとの声が会員団体加盟企業より寄せられていることなどを説明し、九州地整に地場ゼネコン等へどのような促進策を講じているのかを質問した。

九州地整は行政関係機関や発注者団体、建設業団体などで構成する「ＣＣＵＳ処遇改善推進九州地方協議会」をはじめ、各種会議や講習会、説明会等を通じて、カードリーダーの設置等を含めてＣＣＵＳの周知に努めていることなどを説明した。

